

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク!



赤い羽根共同募金

2018

11

NOVEMBER



Fukushi  
CHIBA

# 福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.180



特集

## 医療的ケア児への支援の現状と課題

地域の福祉活動

[市原市]市津地区社会福祉協議会

エールちば

市川手をつなぐ親の会 キャラバン隊「空」

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み

社会福祉法人 八千代美香会

県社協ニュース

ねんりんピック富山2018

福祉人材関連情報 / やりがい いきがい はたらきがい

佑啓会・支援員の巻



千葉県千葉リハビリテーションセンター愛育園  
園長 石井光子さん

# 医療的ケアが必要であっても 地域で普通の暮らしができるように支援

医療的ケア児は年々増加していますが、これまで必要な支援が十分に受けられない状況にありました。しかし、平成28年6月に児童福祉法の一部が改正されたことがきっかけとなり、徐々に支援体制が整備されつつあります。今回は、医療的ケア児の支援の現状と課題について、千葉県千葉リハビリテーションセンター・愛育園長、石井光子さんにお話を伺い、その内容をもとに構成しました。

## 呼吸、栄養摂取、排泄に関して 医療的ケアが必要な障がい児

医療的ケア児をご存じですか。さまざまな疾病により、乳幼児期に長期入院した後、退院後も人工呼吸器、たんの吸引、経管栄養など、呼吸、栄養摂取、排泄にかかわる医療的ケアが日常的に必要な障がい児のことです。

医療的ケア児の数は年々増加しており、平成27年の段階で全国に1.7万人いるという調査結果(\*)が報告されており、千葉県には推計800人前後の医療的ケア児がいるとみられます。

医療的ケア児はその障がい像から、大きく次の3つのパターンに分けられます。  
1 先天性の心臓・呼吸器系や内分泌・消化器系の疾患のため医療的ケアは必要だが、運動障がいは軽度で歩くことができ、知的障がいは軽度で日常生活の自立度が比較的高い子ども

2 末梢神経や筋疾患のため、寝たきりで人工呼吸器が必要だが、知的障がいは

軽度な子ども

3 重度の運動障がいと知的障がいが合併している医療的ケア児。寝たきりで意思疎通が困難。

このなかで、運動障がいも知的障がいも軽い医療的ケア児は、障害者手帳の対象になることが少ないため、福祉サービスを受けることが難しいという課題を抱えていました。

このような状況のなか、平成28年6月に「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」が公布され、地方公共団体に対して、医療的ケア児がその心身の状況に応じた適切な支援を受けることができるように、保健、医療、福祉、その他の機関との連絡調整を行うための体制整備に関する努力義務が規定されました(児童福祉法第56条の6第2項)。

この法律がきっかけとなって医療的ケア児という概念が注目されるようになり、また支援体制も徐々に整備されつつあり



ます。

## 医療的ケア児に対応できる 訪問看護師育成研修の実施

次に県内の支援体制の現状と課題について、下の図に沿って話を聞きました。

まず小児医療機関による支援ですが、千葉県は地域ごとの基幹病院が機能しているため、小児の急性期医療に関しては外来・入院診療ともに比較的充実しています。また小児期には様々な医療費助成制度が整備されているので、安心して医療を受けることができます。

問題は成人期以降の医療体制です。入院治療が必要になった時の受け入れ先が少ないという課題が千葉県にはあります。医療費助成制度が限られているため負担が重くなる場合もあります。

次に訪問系の医療支援です。以前は医療的ケア児に対応できる訪問看護ステーションは非常に少なかったのですが、千葉県障害福祉課が医療的ケア児に対応できる訪問看護師育成を目的とした様々な研修を平成23年から行ってきた結果、徐々に数が増えてきました。一方、訪問診療はまだ多くの地域で不足しています。しかし、医療法人財団はたかか会が運営するあおぞら診療所新松戸のように、先進的な取り組みをしている医療法人もあります。

訪問リハビリや訪問看護は需要供給ともに増えてきています。

その一方で、ヘルパー事業所などの訪問系福祉サービスはニーズが高いにもかかわらず、医療的ケアに対応できる介護職が不足しており、育成が急務となっています。

行っている事業所の数や受け入れ人数が少ない上に、医療的ケアの内容によっては利用できないケースも多々あります。

また相談支援の機能を強化するため、県は医療的ケア児に対応できる相談支援員の育成に取り組み、人数を増やすだけでなく質の向上も目指しています。

## 普通の生活ができるように 地域全体で支えていく

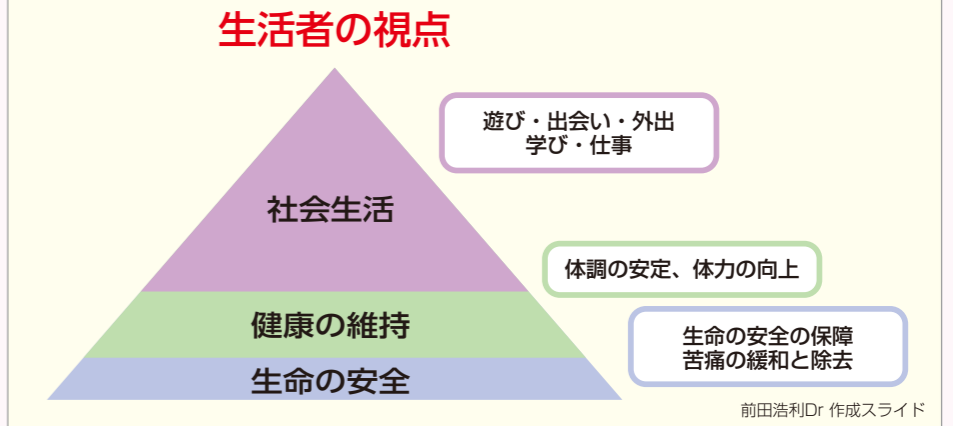
医療的ケア児の生活を支える要素について、医療者の視点と家族の視点は大きく異なると石井園長はいいます。「医療者は生命の安全を重視しますが、ご家族は遊びや出会い、外出、学びといった社会生活を重視し、充実させたいと願っています」

だからこそ福祉サービスに対して、医療的ケア児を受け入れる環境を整えて、社会生活を充実させる手助けをしてほしいという期待が集まっているのです。

医療的ケア児と家族は地域に出てもっと普通の暮らしをしたいと思っています。行きたい学校に通って、同世代の子どもたちとふれあうことができるように、医療や福祉、教育機関の関係者だけでなく、地域全体で支えていくことが求められています。

(※)平成28年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究(田村班)の中間報告」

## 医療的ケア児の生活を支える要素



## 千葉県千葉リハビリテーションセンター 愛育園の取り組み

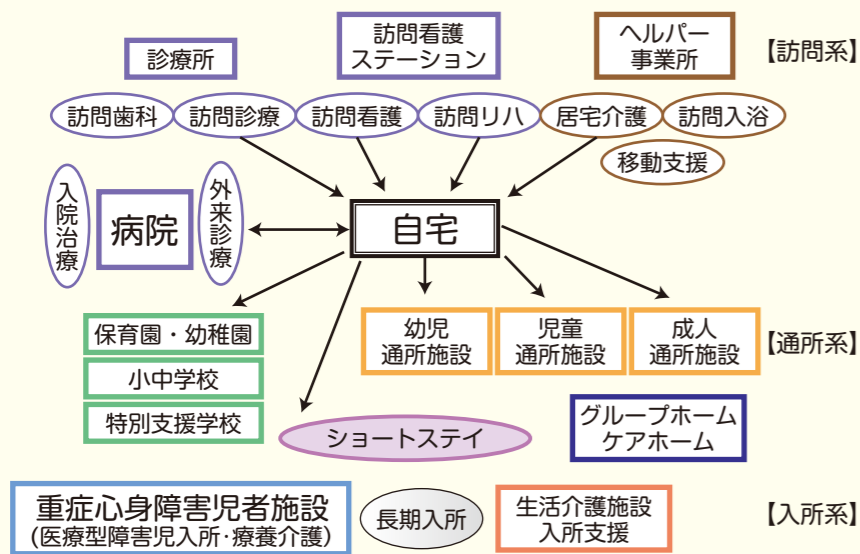


「児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設」と「自立支援法に基づく療養介護施設」の2つの機能をもっています。障がいのある子どもに対して、一定期間入園して集中的な療育を行うとともに、障がいや重度で重複している子どもや18歳以上の重症心身障がい者に対しては長期入院により生活支援と療育を提供。短期入所、日中一時支援などの在宅支援事業も実施しています。

なかでも「親子入園」は愛育園ならではのシステムで、子どもと親がいっしょに2カ月間入園し、集中的な訓練を行うことで成長発達を促すとともに、親に対しては療育の基礎知識や技能を習得する支援を行っており、親同士のピアカウンセリングの場にもなっています。

通所施設も充実しており、未就学児通園、重症心身障がい者通園、就学児通園(放課後デイサービス)を実施。また居住地の通所施設や学校に通えるように地域の関係機関と連携を図り、愛育園の職員が出向いて受け入れのアドバイスを行うなどの支援にも取り組んでいます。

## 医療的ケア児者への支援





## 住民の声を形にした「地区行動計画」を策定！ 関係団体と連携して着々と課題を解決

市原市は市全域を「基本福祉圏」、市役所支所が設置されている11の圏域を「中域福祉圏」、小学校区の46の圏域を「小域福祉圏」と3層の福祉圏を設定しています。中域福祉圏に地区社会福祉協議会、小域福祉圏に小域ネットワークを設置し、基本福祉圏の行政や市の社会福祉協議会と連携して地域福祉を推進しています。今回は、先進的な取り組みを進める市津地区社会福祉協議会(以下、市津地区社協)を紹介します。

### 交通弱者を支援する ふれあい買い物ツアー

市津地区は里山や田園風景が広がる自然豊かな地域ですが、市内11地区のなかでも高齢化率が高く(約38%)、路線バスの撤退により交通空白地帯が増えていることなどが地域の大きな課題となっています。

市津地区社協は、町内会の集会所の一角に事務所を構え、11人の役員が中心となって、多彩な活動を展開しています。

今回取材させていただいたのは、日常生活支援事業の一環として、平成28年12月から実施している「ふれあい買い物ツアー」の活動です。



丸山喜久雄会長

日常の買い物に不便を感じている高齢者が増加していることから、市津地区社協はスーパーへの無料送迎を実施したいと考え、地区内

に2カ所ある高齢者福祉施設に「空き時間に送迎車両を活用させてほしい」と協力を要請したところ、2施設とも快諾してくれたそうです。

月2回、マイクロバス1台を含む3~4台の車両が、2コースに分かれて大型スーパーまで送迎しています。現在61名の利用者が登録していますが、一回ごとの利用者数は20数名ほど。大半が70代、80代の女性です。

「運転に不安を覚え、免許証を自主返納したので、このサービスを利用するようになりました。近所の方と誘い合って買い物するのは楽しい」と話す女性は、両手に抱えきれないほどの食品を購入し、満足そうに待機していた車に乗り込みました。

それぞれの車両には、市津地区社協の役員や地域のボランティアが添乗員として同乗し、乗り降りの際にサポートするなど、利用者の安全確保やスムーズな進行に努めています。



スーパーに到着。施設のドライバーさんも乗り降りをサポート

### 町会長会などの団体と 緊密なネットワークを構築

市津地区には市東第一小学校区、旧市東第二小学校区、湿津小学校区の3つの小域福祉ネットワークが組織されていますが、市津地区社協は、これらの3団体と情報や課題を共有しながら協力体制を構築しています。また、町会長会など地域の団体とも緊密なネットワークを構築して



新サービス立ち上げに向けて会議中の役員のみなさん

活動しています。

たとえば、高齢者を対象とした「ふれあい・いきいきサロン」の取り組みは、町会が実施主体となり、市津地区社協は小域ネットワークと連携して、未開催の町会に働きかけを行ったり、立ち上げをサポートしています。このように関係団体と連携を図って推進しているため、市津地区は11地区社協のなかでサロン会場の数が際立って多く、現在10会場で開催しています。

### 住民意識調査を実施して 地区行動計画を実施

昨年7月、市社協が「第5次地域福祉活動計画」を策定し、その基本目標の一つ「みんなの顔が



市津地区地域福祉行動計画

つながる仕組みづくり」をめざした施策として「地区行動計画の策定・推進」を位置づけたことから、早速、市津地区社協を中心に、町会長会、小域福祉ネットワ

市原市社会福祉協議会 TEL 0436-24-0011

## 地域の想いを形にしていくために

市原市社会福祉協議会(以下、市原市社協)では、地域福祉活動の更なる推進を図るために、平成23年度から行政区をベースとした11の圏域ごとに、地区担当職員を配置しています。

地区担当職員は、それぞれの圏域内で活動している地区社協や小域福祉ネットワークが開催する様々な会議や事業に参加し、地域が抱える生活課題の解決に向けた住民主体による話し合いや取り組みに対して、必要なサポート活動や情報提供、アドバイスを行うなど、地域住民と一体となって地域福祉活動の推進に取り組んでいます。

また、圏域ごとに地区社協と小域福祉ネットワークによる連絡会議を開催し、団体間の情報交換や意見交換を行うなど、同じ圏域内で活動する地域福祉関係者同

く、民生委員児童委員協議会などが構成メンバーとなり、「地区行動計画策定委員会」を設立しました。

まず「住民はどんな困りごとを抱えているのか」を調査しようと、住民意識調査を実施。全37地区の町会長が協力して、全世帯に対してアンケートを行い、住民からの回答を集計しました。この調査に基づいて、活動の方向性や重点取り組み方策などを決めて今年の3月に「市津地区地域福祉行動計画」(スマイルライフプラン)を策定しました。

また、住民意識調査の結果から、庭の手入れや通院介助など、日常生活の手助けを必要とする人が多数いることが判明し、住民参加型の在宅福祉サービスの立ち上げに向けて、現在、仕組みづくりを進めています。

市津地区社協の丸山喜久雄会長は「住民の声を形にした行動計画に沿って取り組むことができるので、自信を持って活動できるようになりました」と話します。

### 住民同士で助け合い 笑顔があふれる地区に!

市津地区社協は、このほかにもさまざまな事業に取り組んでいます。自主財源確保のために、市から公園の清掃を請け負い、民生委員児童委員協議会や更生保護女性会など他団体の協力を得て月2回、活動していますが、年間60万円弱の収入が得られるだけでなく、団体の横のつながりを構築する機会になっているといいます。

また拠点の事務所がある強みを生かし、



ひよこクラブ

住民が気軽に相談できる窓口を設置。週一回、市津地区社協役員が対応し、相談内容によっては専門機関につなげています。

また住民意識調査の結果から、地区社協の認知度が低いことが判明したため、これまで年2回発行していた広報紙に加え、地区社協の取り組みを詳細に紹介する新たな広報紙を発行しています。

最後に、市津地区社協の丸山会長に、地域への思いを伺いました。「押し寄せる高齢化の波に対し、行政に頼るだけでなく、住民同士、助け合うことが求められています。助け合うと、そこには必ず笑顔が生まれます。そのような笑顔があふれる地区にしたいと願っています」



福祉バザー



市原市社協のみなさん

るのではなく、地域の特性や実情に即した地域福祉活動を地域住民と一体となって推進していくことを大切にしています。

地域包括ケアシステムや地域共生社会の実現を目指して全国的に地域に期待される役割が増えている中、常に職員のスキルアップを図り、その専門性を地域にフィードバックしながら、地域の想いを形にしていくための支援活動に積極的に取り組んでいきます。

疑似体験を通して知的障害者の気持ちを理解しよう！

母親たちが地域で取り組む啓発活動



「障害があっても安心、安全に暮らせる地域になってほしい」と、知的障害者の母親のみなさんが「市川手をつなぐ親の会 キャラバン隊『空』」を結成し、地域に向いて公演活動を続けています。公演は疑似体験を通して障害者の障害による特性や周りに理解されないことによる生きづらさ・暮らしづらさを理解したうえで、必要な支援とは何かを学ぶ場となっています。

知的障害のことを地域の人に知ってほしい

いまから15年ほど前のことです。市川市では、小学校の特別支援学級の児童がからかわれたり、砂をかけられたりするということが起きていました。

そこで「市川手をつなぐ親の会」(知的障害のある人の家族の会)の母親たちが、「子どもたちが将来地域で安心、安全に暮らしていくためには、地域の人に知的障害について知ってもらうことが必要」と考え、出前講座を始めました。自治会、民生委員、消防団、PTA、商店会など、さまざまな立場の方と懇親会を実施して、母親の体験談などを披露したのです。

「障害があるから不幸なのではない。理解がないから不幸なのだ」と考える母親たちは、地域の子もたちに向けた啓発活動に取り組もうと、その手法を模索していました。

小学校や自治会等で14年に渡って公演活動

「そんななか、障害者の気持ちを理解するための疑似体験を行っている神奈川

県座間市のキャラバン隊の活動を知り「これだ!」と思いました。早速私たちも公演の台本を練り、平成16年に母親20名(現在9名)が集まってキャラバン隊『空』を立ち上げ、公演活動をスタートしました」と、メンバーの鶴岡牧子さんは経緯を説明します。『空』と名付けたのは、空は誰のものでもなく、どんな人でも平等に包む存在であることからだと説明します。

メンバーの子どもが通っている学校や、住んでいる地区の自治会などにPRしながら公演先を開拓し、この14年間、途切れることなく活動を続けてきました。地域の小学校を始め、中・高・大学、自治会などの地域の集まり、福祉施設や福祉の関係団体、看護学校や警察学校などあらゆる場所に向いて、月2～3回の頻度で公演活動を行っています。

言葉が理解できないなどの3つの疑似体験

今回、キャラバン隊『空』が、社会福祉法人春濤会の職員に向けて行った公演を取材させていただきました。

まずキャラバン隊『空』の概要につい



て説明があった後、代表の平野緑さんが自閉症の娘さんを育てた体験を話しました。ゆっくり成長するなかで、できることが少しずつ増え、家事の手伝いもできるようになったそうです。「障害は治らないけれど、必要な支援と理解があればちゃんと生活できる。楽しく暮らすことができる。夢をもつこともできる」という言葉に、参加者はじっと聞き入っていました。

続いて3つの知的障害の疑似体験を行いました。まず相手の言葉が理解できないコミュニケーション障害を体験します。アニメのキャラクターに扮したメンバー(健常者役)から参加者のひとり(障害者役)が「ピカチュウ語」で何かを頼まれ、困惑しているなかで、ますます激

市川手をつなぐ親の会 キャラバン隊『空』

連絡先090-3817-5278 mdr552001@yahoo.co.jp



しい口調でまくしたてられます。そのうち、身振りや絵を使って説明したことで、ようやく内容が伝わりました。

次はペットボトルの底を使ったメガネをかけて、全体を把握しにくく、ひとつのところしか見えないという体験をしました。

最後に手先が不自由な人の気持ちを体験します。軍手を二重にはめて折り紙でツルを折りますが、思うように手が動かない



うえに、メンバーが傍らで「もっと早く」と急かすので、焦ったりイライラしたりします。

このような疑似体験を通して、知的障害者の障害の特性や周りに理解されないことによる生きづらさ・暮らしづらさを理解し、私たちがどのように支援したらよいかを学ぶ機会になっています。疑似体験のあとは、親の気持ちを綴った詩や絵本の朗読などが続き、1時間30分の公演が終了しました。

メンバーの母親同士がつながって支え合う

これまで数多くの小学校で疑似体験を行ってきたそうですが、小学生の反応について平野代表にお聞きしました。「感想文を読むと、『かわいそう』という記述も多いのですが、『僕は今まで失礼なことをしてきた。これからは仲間として接したい』『とても大変な思いをしていることがわかった。やさしい言葉をかけてあげたい』といった感想もたくさんあって、うれしくなります」

一方でキャラバン隊『空』の活動には、メンバー同士の支え合いという側面もあります。「息子は幼稚園入園後に発症し



左からキャラバン隊『空』代表の平野緑さん、鶴岡牧子さん、高橋美佐子さん、瀧島玲子さん

たてんかんから知的障害児になったため、私は受容できずに苦しんでいましたが、先輩のメンバーと本音で思いを話しあったり笑ったり、公演で子育て体験を伝えることで受容できた。前向きに生きられるようになりました」と瀧島玲子さんはいます。

高橋美佐子さんも「活動する前は狭い人間関係だったが、子どものことを通じて人間関係が広がり、他の障害(LGBTなど)へも壁がなくなった」と話してくれました。この活動を通して地域のさまざまな人とつながることが、メンバーのモチベーションにつながっているそうです。

これからもキャラバン隊『空』は、障害者が地域のなかでごく普通に学び、遊び、働き、暮らしていけるように、地域に向いて公演活動を続けていきます。

公演の感想

保護者の思いに直接触れる貴重な機会になりました



右から 社会福祉法人春濤会 理事長 八幡学園 園長 久保寺玲さん  
小林史さん(障害児入所施設 八幡学園)  
小田島敬司さん(放課後等デイサービス ひまわり)  
長江さをりさん(こども発達支援センター やわた)

今回、キャラバン隊『空』が公演を行った社会福祉法人春濤会八幡学園は、市川市内の障害児入所施設(福祉型)で、児童発達支援センター、放課後等デイサービスが併設されています。公演後、3名の職員が感想を話してくれました。

小林史さんは疑似体験について「慌ただしい日々のなかで、つい職員目線の支援になりがちですが、子どもの視点に立って支援することの大切さを再確認した」という感想をもったそうです。小田島敬司さんは、「子どもに話しかけるときは名前を呼んで一旦区切ってから話したり、表情を確認することが必要だと感じた」と言います。長江さをりさんは、保護者の方々の悩みや不安を直接聞いたことで「これからは保護者支援にもっと力を入れたいと思いました。保護者の方の気持ちを少しでも楽にするお手伝いがしたい」と話してくれました。

久保寺園長にもお話を伺いました。「今回は法人の職員研修の一環で公演を依頼しました。職員は日々、子どもたちの対応支援に追われていますので、その背景にある保護者の方の思いを知る機会が少ないため、直接その思いに触れることは貴重な経験になると考えました。当法人の創設者の遺訓である『踏むな、育てよ、水そそげ』という理念を実現するために、一人ひとりの職員がどのように子どもに向き合うべきか、その気づきを与えてくれる内容でした。また、地域の人々に向けた地道な啓発活動を継続されているとのこと、そのような活動が共生社会をつくっていくのだと思います」とのことでした。

# 地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



## 社会福祉法人 八千代美香会

- 主な事業**
- 特別養護老人ホーム(3)
  - 保育園(2)
  - グループホーム(2)
  - こども園
  - サービス付き高齢者向け住宅
  - 地域交流プラザ

法人本部 / 八千代市村上641 特別養護老人ホーム美香苑  
お問い合わせ TEL.047-482-8670  
HP <http://www.bikou.net/>



左から綱島法人本部長、大岩副施設長

提供いただくこともあったり、また担い手についても、いつもランチを食べに来ていただく高齢者などにボランティアとして協力いただいています。

### ●職員の「やりたい！」から始まる

プレーメン習志野の地域包括支援センターでは、平成26年から介護予防を目的にした「プレーメンのラジオ体操」を開催しています。施設に隣接した公園で週2回実施し、近隣の高齢者30名ほどが参加していますが、仲間づくりにもつながっているとのこと。法人本部のある八千代市でもラジオ体操の取り組みが始まりました。

法人の常務理事・法人本部長の綱島由美子さんは、八千代美香会の公益的な事業の特徴について、トップダウンではなく、現場の職員の「やってみたい」という思いからスタートし、施設長など管理者も協力しながらみんなで、形にしていることだと指摘。だからこそ職員のモチベーションが高く、長く継続できるのではないのでしょうか。今後の取り組みについて綱島常務理事は「当法人には高齢者福祉と児童福祉という2本の柱があるので、子どもと高齢者を結びつけるような公益的な事業を立ち上げて、地域に貢献できればと考えています」と抱負を語ってくれました。



このレストランで、平成28年から子ども食堂がスタートしました。月1回、金曜の夕食を幼児100円、小中学生200円で提供しています。地域の子どもなら誰でも利用できる形式で、毎回50~60食があとという間に完売してしまいます。

「子ども食堂は本来、支援が必要な子どもを対象としたサービスですが、あえて間口を広げました。地域の子どもたちがにぎやかに食事をするなかで、生活に困っている親子も気兼ねなく参加されています」と、プレーメン習志野の副施設長、大岩優子さんは話します。食材については、地元住民から



### ●プレーメン型地域社会をめざそう

昭和63年に設立した社会福祉法人八千代美香会は、八千代市、千葉市若葉区、船橋市で特別養護老人ホームを運営し、八千代市と習志野市で保育園、子ども園を運営しています。高齢者福祉と児童福祉の分野で幅広い事業を展開するなか、平成21年には地域交流プラザ「プレーメン習志野」を開設しました。

この施設は、前知事の堂本暁子氏が提唱した「プレーメン型地域社会づくりモデル事業」として、県が所有する習志野市内の土地を活用して整備されました。コバ、犬、猫、鶏が力を合わせて生きていくというグリム童話「プレーメンの音楽隊」にちなみ、児童、障がい者、高齢者を含む地域住民が元々あって住み続けられる地域をめざそうという考えが込められています。

運営団体を公募した結果、同法人が選定され、地域住民の幅広いニーズを詰め込んだ3階建ての施設が完成しました。

### ●生活困窮の親子も気兼ねなく参加

プレーメン習志野には、同法人が運営するデイサービス、ショートステイ、リハビリスタジオ、居宅介護支援センター、地域包括支援センター、多目的ホールなどのほか、別法人が運営する保育施設、市のサービス機関であるヘルスステーション（地域保健活動の拠点）などが入居しています。

レストランも同法人の運営で、毎日500円ランチを提供。近隣に住む一人暮らしの高齢者を中心に大勢の利用客が訪れます。また、同法人では今年10月から別地区で、「朝カフェ」も始め、ますます地域の憩い

# 県社協ニュース

ねんりんピックで  
輝きを魅せます!



## 第31回全国健康福祉祭とやま大会 ねんりんピック富山2018

夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から  
平成30年11月3日(土)~6日(火)



全国健康福祉祭は、60歳以上の高齢者を中心とする卓球、テニス、ゲートボール、サッカーなどの各種スポーツ交流大会のほか、囲碁や将棋などの文化交流大会、美術展、健康福祉機器展、音楽文化祭など、あらゆる世代の人たちが楽しめる総合的な祭典です。

第31回となる今大会は、全国健康福祉祭とやま大会（ねんりんピック富山2018）として、11月3日（土）~6日（火）の4日間、富山県総合運動公園陸上競技場での総合開会式を皮切りに、富山県内15市町村で開催されます（主催：厚生労働省・富山県・一般財団法人長寿社会開発センター 共催：スポーツ庁）。

千葉県からは、22種目に141名（男性94名、女性47名）の選手が出場する予定で、平均年齢は70.3歳、最高齢者は男性81歳、女性93歳（平成31年4月1日時点）です。その千葉県選手団の結団及び激励を目的として、10月23日（火）、千葉市のホテルプラザ菜の花にて、結団式を開催しました。結団式には、お揃いのユニフォームに身を包んだ117名の選手が出席しました。

主催者挨拶（千葉県社会福祉協議会長）、来賓紹介、団長及び副団長紹介に続いて、種目別参加選手が紹介され、選手一同、千葉県健康福祉部 神部眞一次長から激励の言葉をいただきました。大会当日旗手を務める、轟賞選手（種目：ペタンク）に千葉県旗が手渡されると、選手団最高齢（女性）93歳の白井栄子選手（種目：弓道）が「千葉県の代表として、日ごろの練習の成果を十分に発揮し、富山県に集う全国の仲間たちとの交流を深め、精一杯プレーすることを誓います」と、力強く選手宣誓を行いました。

大会当日は、全国から出場する選手、観客を含め延べ約50万人が集い、盛大に開催されます。



### 【大会の目標】

1. 「生涯現役社会」につながる高齢者がいきいきと輝く大会
2. 「健康寿命」延伸への気運を高める大会
3. 「地域共生社会」を創る交流とふれあいが広がる大会
4. 自然、伝統、文化、産業、食など「富山県の魅力」あふれる大会
5. 「おもてなしの心」で「温かみ」のある大会

### 【千葉県選手団が出場する種目】全27種目中、22種目

- ①卓球 ②テニス ③ソフトテニス ④ソフトボール ⑤ゲートボール ⑥ペタンク ⑦ゴルフ ⑧マラソン ⑨弓道 ⑩剣道 ⑪水泳 ⑫グラウンド・ゴルフ ⑬サッカー ⑭ソフトバレーボール ⑮ウォークラリー ⑯太極拳 ⑰ダンススポーツ ⑱パークゴルフ ⑲カローリング ⑳囲碁 ㉑将棋 ㉒健康マージャン
- ※他、ラグビーフットボール、ボウリング、ビーチボール、俳句、川柳は、今回の出場はありません。



今回の第32回大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）は、「あふれる情熱はじける笑顔」をテーマに、平成31年11月9日（土）~12日（火）に和歌山県で開催される予定です。

### 社会福祉施設 経営相談専門家相談カレンダー(平成30年度)

月	会計等(税理士・公認会計士)	労務等(社会保険労務士)	法律(弁護士)
11月	5日(月)・19日(月)	7日(水)・21日(水)	14日(水)・28日(水)
12月	3日(月)・17日(月)	5日(水)・19日(水)	12日(水)・26日(水)
31年1月	21日(月)	7日(月)・16日(水)	9日(水)・23日(水)
2月	4日(月)・18日(月)	6日(水)・20日(水)	13日(水)・27日(水)

◎要予約。一般相談・予約は☎043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで  
◎詳細はお問い合わせください。 **秘密厳守・相談無料**

ご相談ください  
福祉サービスに関する  
苦情解決相談

千葉県運営適正化委員会 電話043-246-0294  
メール support@chibakenshakyo.com FAX 043-246-0298  
【受付時間】平日9時~12時、13時~17時（土日祝日・年末年始を除きます）  
※来所面談は予約制です。事前にご連絡ください。メール、FAXも可。

# 赤い羽根共同募金



平成30年12月1日より

# 歳末たすけあい募金が始まります

千葉県共同募金会からのお知らせ

歳末たすけあい募金は共同募金の活動のひとつで、毎年12月に行われ、「市町村歳末たすけあい募金」と「NHK歳末たすけあい募金」の2種類があります。平成29年度の歳末たすけあい募金では、県内で総額2億3,570万1,617円のご浄財が寄せられました。皆さまの温かいご協力で心より感謝申し上げます。

今年も県内のさまざまな地域課題の解決のために、歳末たすけあい募金へのご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。

**平成30年度 歳末たすけあい募金目標額 2億6,000万円**

市町村歳末たすけあい募金目標額 2億3,000万円

NHK歳末たすけあい募金目標額 3,000万円

## 市町村歳末たすけあい募金 (地域歳末たすけあい募金)

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、住民の参加や理解を得てさまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。

お寄せいただいたご寄付は、**全額が「集められた地域」で使われる**ことが特徴です。



<高齢者福祉施設での年末行事実施>  
施設利用者及び家族、地域住民等参加による餅つき大会【山武市】



<当事者団体支援>  
障がい児者の家族と学生ボランティアの交流活動【我孫子市】

## NHK歳末たすけあい募金

毎年NHKと共同募金会の共催で行われる、助け合い運動です。お寄せいただいたご寄付は、県内の福祉施設での介護用品や就労支援・作業用品、防災等の備品の整備に役立てられます。

昨年は千葉県内で69の福祉施設への助成に役立てられました。



子ども発達支援センターに療育遊具購入  
子ども達の笑顔が増えました。(市川市)



平成30年度NHK歳末たすけあい募金ポスター

**平成29年度 歳末たすけあい募金総額 2億3,570万1,617円**

市町村歳末たすけあい募金 2億1,670万 1,414円

NHK歳末たすけあい募金 1,900万 203円



ご協力ありがとうございました。



## NHK歳末たすけあい助成を受けたい方へ

平成30年度の助成内容	
助成内容	社会福祉法人、NPO法人等の施設利用者に役立つ備品購入
助成率	NPO法人・任意団体 算定額の最大100% その他の団体 算定額の最大75%
助成上限額	20万円
申請期間	11月30日まで(現在受付中)
助成時期	第一次 平成31年1月 第二次 平成31年3月

※助成申請書や要綱は、当会ホームページにてダウンロードいただけます。  
<http://www.akaihane-chiba.jp/> 詳しくは下記までお問い合わせください。

## 災害義援金 受付中

当会では、現在下記の災害義援金の受付を行っています。

- ・北海道胆振東部地震
- ・平成30年7月豪雨災害(西日本豪雨)
- ・平成28年熊本地震

銀行名	支店名	口座番号
千葉銀行	本店営業部	普通 3495585
京葉銀行	本店営業部	普通 3286924
千葉興業銀行	本店営業部	普通 1081550
千葉信用金庫	千葉駅北口支店	普通 0702826
ゆうちょ銀行		00100-4-22297

※口座名義は「(株)千葉共同募金会」です。  
※お振込みの際は振込依頼書の備考欄に「平成30年7月豪雨災害」「北海道胆振東部地震」等、該当義援金の名称をご記入ください。  
※共同募金会への義援金は税制上の優遇措置対象となります。詳しくは下記までご連絡下さい。

## 皆さまに支えられて、70年の歴史ある運動へ



共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として始まりました。戦後復興として第一回の共同募金運動では、およそ6億円(現在の価値で約1,200億円)の浄財が寄せられ、現在では、時代の移り変わりに合わせてさまざまな地域の課題解決のための「じよんの町を良くするしくみ。」として取り組んでいます。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

## 社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3 県社会福祉センター 2F  
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338  
<http://www.akaihane-chiba.jp/>



赤い羽根 ちびば



千葉県共同募金会  
マスコットキャラクター「ちびば」

## 地域の情報ひろば

# 12月3日～9日は障害者週間です

### 第50回千葉県身体障害者福祉大会記念講演 「～不自由だけれど不幸ではない～」

2018ウィルチェアラグビー世界選手権シドニー大会で優勝、2016リオパラリンピック銅メダリストの官野一彦氏をお迎えしてお話を伺います。お楽しみに！参加をお待ちしています。



官野一彦氏

- 日 時：平成30年11月20日(火) 14:20～15:20
- 場 所：青葉の森公園芸術文化ホール 千葉市中央区青葉町977-1 (京成千原線千葉寺駅から徒歩約15分)
- 対象・定員：県内の身体障害者とその家族、関係団体他、関心のある方(どなたでも参加できます)
- 主 催：千葉県・千葉県身体障害者福祉協会
- 参加費：無料
- 参加方法：申込み不要。直接ご来場ください。
- 問合せ先：千葉県身体障害者福祉協会  
TEL 043-245-1746  
FAX 043-245-1578

### 第10回東金チャレンジドフェスタ

障害者週間のPRと地域交流を目的としたイベントです。各種模擬店、団体の活動PR、体験、相談コーナー、にぎやかなステージ等。先着でおもちやスタンプラリーの景品をプレゼント。チーバくん、とっちー、やっさくんもくるよ！

- 日 時：平成30年12月2日(日) 10:00～14:00
- 場 所：東金市保健福祉センター(ふれあいセンター) 東金市田間3-9-1
- 対象・定員：どなたでも参加できます
- 主 催：第10回東金チャレンジドフェスタ実行委員会
- 参加費：無料
- 参加方法：申込み不要。直接ご来場ください。
- 問合せ先：東金市社会福祉協議会 担当：石井  
TEL 0475-52-5198  
FAX 0475-52-8227

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

# ボランティア活動保険

平成30年度  
全国200万人  
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

### 保険金額

保険金の種類	プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	1,400万円(限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 入院中の手術	65,000円	100,000円
	保険金 外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
賠償責任	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)	
賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	

### 年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	Aプラン	350円	510円
	Bプラン	500円	710円
天災タイプ(※)		500円	710円

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

### 保険金をお支払いする主な例



### ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL:03(3349)5137  
受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、12/31～1/3を除きます。)

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763  
営業時間：平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



## 利用者さんとともに汗をかき、達成感を分かち合っています



社会福祉法人 佑啓会  
障害者支援施設(施設入所支援・生活介護)／短期入所  
ふる里学舎 蔵波  
勤務歴：3年目

支援員

川口翔馬さん

### ●就職先として障害者支援施設を選んだ理由を教えてください

高齢者福祉の道に進もうと考えて福祉系の大学に進学したのですが、現在、私が所属している法人の障害者支援施設に実習に行ったことが、進路を変えるきっかけになりました。それまで障害者福祉に対して暗いイメージを持っていましたが、実習施設の雰囲気明るく、利用者さんと職員の信頼関係が築かれていることに惹かれました。また利用者さんが「就職したい」「この仕事を覚えたい」といった、それぞれの目標に向かって努力する姿を見て、障害者福祉の仕事をやってみたいと思い、新卒採用でこの法人に入職し、袖ヶ浦市にあるこの職場に配属されました。

### ●現在、どのような仕事を担当されているのですか

利用者さんの特性に応じて6つの作業科に分かれて日中活動を行っています。私は1年目からずっと「農耕科」を担当し、現在はチーフを務めています。この科は利用者さんと職員がひとつのチームを組んで、敷地内の畑で野菜を栽培し、近くのスーパーに卸しています。チームには新人の職員もいれば、シニア世代のパート職員もいるので、利用者さんも含めて、みんなが同じ方向を向いて仕事に取り組めるように、リーダーシップを発揮しなければなりません。また日中活動だけでなく、夜勤も含めて生活寮での日常生活の支援も行っています。

### ●新人のころ、苦労したことを教えてください

農耕科の利用者さんは軽度なので、コミュニケーションに苦労することはないと思っていましたが、逆に友だち言葉で慣れ慣れしく接して失敗し、距離感の取り方がわからなくなって、先輩に相談したことがあります。すると「君がいつも先頭に立って仕事をするんだよ。利用者さんは君の背中を見て『この職員はすごい』と感じる。それが軽度の方とのコミュニケーションの極意だ」と教えてもらい、その通りにしたところ、利用者さんからの信頼を得られるようになりました。

### ●どんな場面で仕事のやりがいを感じますか

利用者さんといっしょに畑で汗を流し、いっしょに笑ったり、

栽培がうまくいかなかったりいっしょに悩んだりしながら仕事ができることは、障害者支援施設ならではの楽しさ、面白さです。そして収穫するときの達成感をみんなで分かち合えるときにやりがいを感じます。

### ●障がい者支援をする難しさは

障がいの状況や性格などは一人ひとり異なるので、その方をよく理解したうえで支援することが基本ですが、最初はわからないので、かかわっていくなかで見極めていくことになります。しかし、言葉のかけ方ひとつとっても非常に難しく、不適切な言葉かけによって、利用者さんを苦しめてしまうことがあります。

### ●印象に残っているエピソードを紹介してください

一年ほど前、感情の起伏が激しい精神障がいの方が入所してきて、対応に苦慮しました。しかし毎日その方とかかわっていくなかで、だんだん生活のリズムが整ってきて、いまではすっかり精神状態も安定して、いきいきと作業できるようになりました。私たちの仕事は決して派手ではありませんが、地道に支援していくなかで、利用者さんが大きく変わっていく姿を見て、とてもうれしく、また自信も得られました。

### ●これから障害者福祉を目指す人にメッセージをお願いします

人と接することが好きな方にとって、障害者支援施設の現場はとても楽しいはず。また利用者さんだけでなく、保護者の方からも「ありがとうございます」と感謝される時は、本当にこの仕事を選んでよかったと思います。あなたもぜひ、障害者支援施設で働いてみませんか。

### それぞれの職員の持ち味を活かし合える仕事

川口さんはとても明るくさわやかで、周囲の雰囲気を変えてしまう力をもっています。とはいっても、当施設の職員はそれぞれ持ち味が異なっていて、自分のいいところを活かし合って仕事をしています。障害者支援施設の仕事は利用者さんといっしょに職員が成長できることが一つの特徴です。その半面、責任が重く、利用者さんは出会う職員によって、その後の人生が変わることがあります。だからこそやりがいのある仕事だと思います。

ふる里学舎 蔵波  
施設長 松橋達也さん



### 障害者支援施設とは・・・

障害をもった方の日常や社会生活を総合的に支援する施設のこと。施設に入所して施設内で生活したり、日中のみ必要な支援を提供してもらうことができます。これらのサービスは障害者総合支援法という法律に基づき提供されています。

FUKUSHI-JOB SEARCH  
**福祉のお仕事**

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>



千葉県福祉人材センター TEL.043-222-1294



編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会 平成30年11月7日発行

〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番3号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201  
<http://www.chibakenshakyo.com>

広報誌「福祉ちば」の発行には、一部共同募金の配分金を充当しています。